

日本の〈性〉言説を、学問へと近づけた医師の遺産

大正9年、性をめぐる言説が社会を揺るがせた時代――。
医学博士・羽太鋭治が主幹を務めた『性慾と人性』は、日本における〈性科学〉の黎明を示す先駆的雑誌である。医師としての臨床と学問の狭間で、羽太は「性」を医学・倫理・文化の交差点として見つめ、通俗性科学という新たな知の地平を模索した。
国会図書館にも未所蔵の稀覯資料を、百年の時を経て復刻する。

羽太鋭治（編集主幹）

性慾と人性

1920年11月〜1921年10月 文華書院発行

復刻版



三人社

全2巻
●解題 斎藤 光
●推薦 河原梓水
●定価 50,000円＋税
●刊行 2025年12月

【復刻版概要】
1920年11月〜1921年10月 文華書院発行
性慾と人性 復刻版 全2巻

（原本全12冊を2巻に合本。解題・総目次・執筆者索引は第2巻の巻末に付す）

- 解題 斎藤 光（京都精華大学教授）
- 推薦 河原梓水（福岡女子大学准教授）
- 体裁 A5判・上製・総約660頁
- 揃定価 50,000円＋税
- 原本提供 斎藤 光
- 刊行 2025年12月

『性慾と人性』復刻版 全2巻 刊行一覧

価格 ISBN	復刻版巻数	原本号数	原本発行年月日	頁数
揃価格 50,000円＋税 ISBN978-4-86691-804-4	第1巻	第1巻第1號	1920.10.1	44
		第1巻第2號	1920.12.1	44
		第2巻第1號	1921. 1.1	52
		第2巻第2號	1921. 2.1	52
		第2巻第3號	1921. 3.1	52
		第2巻第4號	1921. 4.1	52
	第2巻	第2巻第5號	1921. 5.1	52
		第2巻第6號	1921. 6.1	52
		第2巻第7號	1921. 7.1	52
		第2巻第8號	1921. 8.1	52
		第2巻第9號	1921. 9.1	52
		第2巻第10號	1921.10.1	52
	解題・総目次・執筆者索引			



近代日本「性」研究雑誌叢書シリーズ①

北野博美主筆

性之研究 復刻版

『変態心理』編集長、折口信夫の口述筆記を担いながらも、経歴に多くの謎を残す北野博美――
その筆が放つ、近代日本における「性」研究の嚆矢！

全4巻・別冊1

- 別冊：解題・総目次・執筆者索引
- 体裁：A5判・上製・総約1,410頁
- 解題：斎藤 光（京都精華大学教授）
- 推薦：井上章一（国際日本文化研究センター）
菊地 暁（京都大学人文科学研究所）
- 揃定価 100,000円＋税



全巻既刊！

三人社

〒606-8351
京都市左京区岡崎徳成町29-3 岡崎ミントビル
電話 075-762-0368 FAX 075-762-0369
E-mail: info@mitari.co.jp https://mitari.co.jp/

ご注文は書店様または直接上記までお申し込みください。

●表示はすべて税別

刊行のことば

斎藤 光

〈京都精華大学教授〉

1920年代、日本語文化圏では、性欲雑誌というジャンルが形成された。学術的に「性」に接近することを標榜した諸雑誌群が発刊されていったのである。「近代日本「性」研究雑誌叢書1」として復刻された『性之研究』（北野博美主筆）は、1919年12月創刊であり、そうした性欲雑誌ジャンルの嚆矢であった。

1920年1月には、「性」の専門家とされていた澤田順次郎を編集主任に据えた月刊雑誌『性』が出版される。好奇心に訴える宣伝もあり、学術性もまとった『性』は急速に売り上げを伸ばした。ここから性欲雑誌のブームがはじまり、「性欲」や「性」そして「恋愛」をテーマとした多くの雑誌が誕生していくことになる。

1915年、澤田順次郎と共著の『変態性欲論』を春陽堂から出版し、その後、病院を営みつつ、臨床的研究を進めていた羽太銳治も、自身が主筆となってこのブームに参入した。その時の雑誌が今回復刻された『性慾と人性』である。

羽太は、1919年、京都帝国大学に論文を提出し、翌年1月文部大臣から学位を授与された。つまり、医学博士という称号を通してアカデミック性が付与された性欲雑誌が出現したことになる。ただ、研究を継続組織する制度を作ることはほぼ試みられず、約1年で終刊となった。

この『性慾と人性』は、大学図書館や公共図書館等での所蔵は確認されていない。しかし、今回の復刻によって、『性慾と人性』の内容へアプローチすることが可能となった。今後、その再読と分析により1920年代の日本の性言説に新たな光が当てられることになるだろう。

幻の性科学雑誌、復刻！

河原梓水

〈福岡女子大学准教授〉

20世紀初頭、ヨーロッパから日本に輸入された性科学は、今という性的指向／嗜好を、人間の本性に関わる重要な要素と位置づけることによって、性に関する膨大な言説を生み出した。この時日本に定着した性に関する認識枠組みは、私たちの思考を現在においても強く規定しているが、かかる潮流を牽引したのが羽太銳治であり、彼の創刊した『性慾と人性』はそのプラットフォームとして機能した。重要な雑誌であるにもかかわらず、大学図書館・国会図書館に所蔵が無く、長い間アクセス困難な幻の雑誌であった。同時代誌『性之研究』に続いて本誌が復刻されたことの意義は大きい。

『性慾と人性』からは、性的マイノリティへの高い関心と、様々な性のあり方を名付け、カテゴライズすることへの強い欲求が見て取れるが、これは現代の状況とも重なってみえる。本誌は、性をめぐる現代的諸課題を歴史的に検討する際にも、格好の史料となるはずである。



内容見本

(1)

義主慾禁るれ謬

—(書 頭 巻)—

トルストイは「人生は肉慾解脱への絶え間ない努力から成立つて居る。此努力にこそ人生の祝福がある」と云ふて居る。性慾情慾といふと、直ぐに煩惱罪惡を聯想して、性慾とは煩惱罪惡の同體異名のやうに心得られて居ると誰か云ふた。然り従来の宗教、従来の道徳は皆この理想に因はれたもので、従来の宗教に於て清淨の人となるには、相應に情慾を勵行せねばならぬ、粗食素食をして更に踏食もせねばならぬ、妻女を娶つたり嫁いたりする事は勿論ならぬ、トラビストの如きは、言語を發するすら許されぬ、互に物を言ふて語をする、怒り罪惡が構成するとして居る、禁慾門の苦業と相似たる極端の禁慾主義である。トラビストほどの極端ではないが、基督教の僧侶も、身の清淨を保つ處から獨身生活をする、婦女を見ることは大の禁物である。トルストイの性慾觀も亦基督教の僧侶と餘り異らない、謂はゞ身の汚れを恐るゝ強迫觀念の症狀であつた。

其他猶太教から基督教、遠慮門教から佛教の有様を考へて見ると、禁慾の結果は何時でも偽善となつて腐敗し、虚偽となつて墮落をして居る、何故に偽善となるか虚偽となるかと考へると、人間本來の性慾、無くてはならぬ性慾、人間の人間たる性慾、人間の基礎たる性慾を以て、無理に不自然に抑壓的に解脱せんとしたり、然則せんとしたりするから、虚偽を蒙ふか、偽善に陥るか、血路が無くなつて下ふからである、要するに従來の宗教が苦業禁慾の徒勞に屬するのみならず、最も惡むべき偽善虚偽の罪惡にまで陥つたのは、畢竟性慾本來の意義に徹底して居なかつたからである。

(6)

同性愛の研究(一)

豫學博士 羽太銳治

同性間性慾の分類

性慾は、異性間に成立するのを原則とする。然るに茲に同性即ち男性と男性、女性と女性との間に生ずる處の一種不可思議なる性慾がある。同性間性慾(又は同愛、顛倒性慾)といふのが其れである。同性間性慾の原因に就いては種々の説がある。一は先天性説であつて専らトラフト・エビング、フエレー、モル等の唱ふる處、一は後天性説であつてシュレー、ビネー等の唱ふる處である。兩説とも一面の眞理を含んでゐて、兩説ともに捨て難いのであるが、これを要するに、同性間性慾には先天性のもの、後天性のものとの二種あると思つて大過ないやうである。即ち、

甲)先天性同性間性慾 外部の誘因なく、自發的に即ち生來的に素質を持つてゐて發達したもの。

乙)後天性同性間性慾 正常なる性慾生活の經過中、外部の誘因から生じたもの。

の二種である。然しながら、其の後天性といふ中にも、仔細にこれを觀察すれば、先天性の如く素質を有しながら、其の素質が潛伏してゐて、正常なる性慾生活の經過中、外部の誘因すら素質の現はれて來るものもある。

トラフト・エビングは其の輕症なものから重症なものへと、左の四階級に分類してゐる。

第一階級 精神的半陰陽 は最も輕症なもので、同性々慾を主としながらも、尙ほ且つ異性々慾の萌芽若しくは其の痕跡を有するもの。

(2)

性教育と裸體

(H. ELIIS)

早稻田大學講師 矢口達

藝術に於ける裸體の價值の問題は、吾人を導いて自然に於ける裸體の類似問題に及ばしめる。裸體と相親しむことは如何なる心理的影響を起すであらうか？ 子供は如何なる程度まで裸體と親しましむべきであらうか？ 是等の問に對する答は時代によつて種々異つて居るが、概近見解の著しき變化が實際教育家の間に生じたことは疑ふ餘地がない。

スバルタに於ては、體操乃至舞蹈を、婦人が裸形のみ、男子と共にしたものである。プラトンは、其著書『共和國』に於て、かゝる習慣を是認し、それを嘲笑するの徒は「知識の樹から未熟のみ、摘ぎ取られたも同然だ」と言つた。彼はまた、性慾の過敏な耳を鈍らすために、男女兩性の共同教育を主張し、あらゆる仕事に於ける男女の共同作業を辯護して居る。

偏狭なる近代的の意味に於て希臘人より一層『道徳的』なる羅馬人が、裸體の力を認めなかつたといふ事實は注目に値する。裸體は彼等にとつて、淫逸なる放縱に過ぎなかつた、従つて裸體は群衆の享樂を目的とする舞臺にのみ限られて居たのである。而して羅馬人は裸體に接せむとして劇場に招集しつゝ、尙裸を蔑視嘲笑したものである。

基督教は、プラトンの感態に幾多の共通を感じながら、而も裸體に關する見解には全然發見しなかつた。蓋理由は極めて簡單で

(23)

實 驗 幼兒の性慾生活(一)

小兒科 醫學士 藤井秀旭

一 茲に幼兒の性慾生活と題しましたが、其の一部 過ぎるものがあるであらう。 分の「オナニー」のことに就いて二三述べたいと思ひます。

兒童の手續に就いては父兄、教育者、醫者が大に研究しなければならぬ問題であるにも拘らず、讀者は只い物に蓋をする主義をとり、深入りをしないで講究しやうとせず、無識者は之れを目撃するも尋常茶飯事として意に介しやうとせず、斯くて此の厭ふべき習慣が永劫根絶する機會なく、漸次蔓延するのを歎かすには居られないのである。

獨逸の中學程度の學校の寄宿生を調べたのに驚くべし、唯一人として之れを行はない者がなかつた

との事である。我國に於ても同様、蓋し思ふに

私は醫者として、殊に小兒科醫として、専門書を繙くに、兒童の手續に就いて心を用ゐて記載して居るものは甚だ少ないに驚かされた。比較的

有の事柄である爲めであらうか。私は左様信じ得ないのである。手續を病氣として取扱ふか、或は惡癖として取扱ふか、それは其原因(又は誘因)によりて違ひもしやうが、もう少し醫者が此のことに就いて知識を持つて欲しいと思ふ。

私は第二小兒期以後の兒童の手續はどれ位行はれて居るかを知らないが、多分其の大部分は手淫